

## 平成 29 年度 駒沢中学校関係者評価委員会 報告書

平成 29 年度駒沢中学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果及び提言を、次のとおりご報告いたします。

平成 29 年度学校関係者評価アンケート実施期間 平成 29 年 11 月 8 日～11 月 13 日

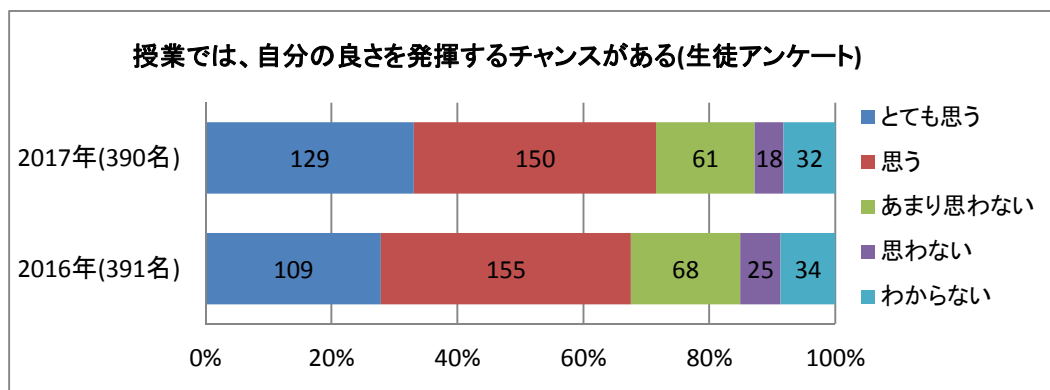
回収数

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	412	412	65
回収数(人)	393	328	35
回収率	95.4%	79.4%	53.8%

### 1. 学習指導について

学習指導に関する項目では、生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」の肯定的評価（とても思う、思う）が昨年度の 82.9%から 78.8%と微減しているものの、依然として高い数値を示している。しかしながら、否定的評価（あまり思わない、思わない）が 17.9%（70 人）いる現実も見逃さないようにしたい。また同様に、生徒アンケート「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい授業をしている」の肯定的評価も 81.3%と、高い評価を示しているが、否定的評価も 14.4%（56 人）存在している。一方、先生方の自己評価「目標や内容を明確に示し、発問や板書を工夫して授業を進めている」及び「ICT を活用するなど、指導方法の工夫・改善を図っている」の肯定的評価が 100%に達しているが、前述の生徒評価と先生方の自己評価との整合性の観点から、より綿密な分析の必要性を感じる。

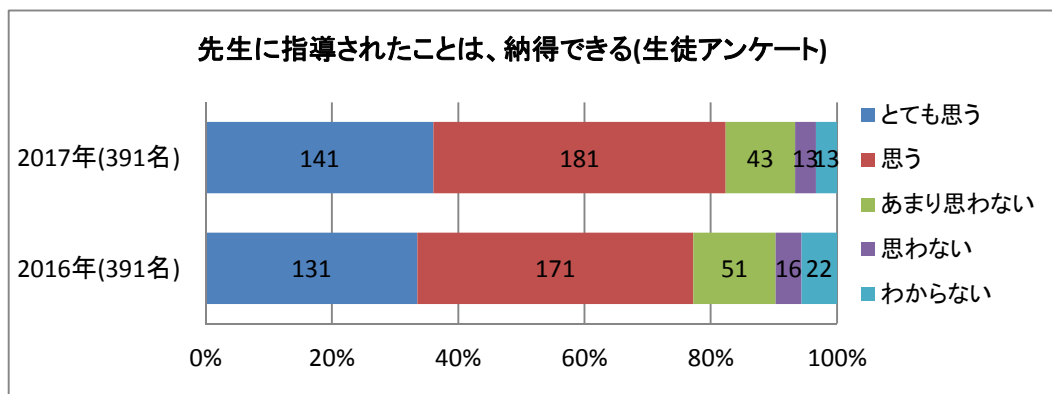
評価については、生徒アンケート「通知表の評価は納得できる」の肯定的評価は全体で 77.4%と昨年度の 70.6%より 6.8 ポイント上昇している。学年別にみると 1 年生 89.3%、2 年生 75.7%、3 年生 67.8%と、学年が上がるにつれて肯定的評価が低くなる傾向がある。また、保護者アンケートの結果においても同様の傾向がみられる。このことは、進学が近づくにつれて内申点への関心が高まることがひとつの要因と考えられるが、学校として、評価のもつ意味や評価と評定の関連性等を生徒及び保護者に対し、今まで以上にしていねいに且つ持続的に説明していくとともに、各々の生徒に向けては、評価結果に対する賞賛と励ましをきめ細かく行っていくことが大切であるとする。



生徒アンケートの中で、学校の独自項目「授業では、自分の良さを発揮するチャンスがある」の肯定的評価が 71.5%と昨年度の 67.5%から 4.0 ポイント上昇している。これは今年度の学校の重点目標のひとつである「生徒の自己有用感を高める機会の充実を図るよう努めている」という先生方の自己評価において肯定的評価 100%が示しているように、先生方の授業に対する姿勢の反映と考える。日本の若者の自己肯定感や自己有用感の欠如が問題視されている昨今、将来を見据えた上で、このような指導を継続的に行うことが望まれると強く感じる。

## 2. 生活指導について

生徒アンケート「誰かが学校のきまりを守らないとき、先生は注意している」肯定的評価 84.4%は、昨年度より 3.1 ポイント上がり、生徒アンケート「先生に指導されたことは、納得できる」の肯定的評価 82.4%は、昨年度より 5.2 ポイント上がった。この 2 項目のポイントが上がっていることから、教職員が多感な時期の生徒と向き合い、きめ細かな生活指導を行っていることがうかがえる。



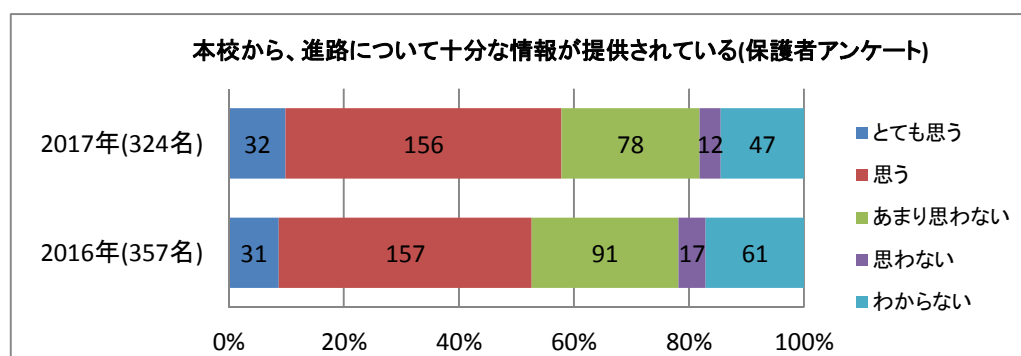
一方、保護者アンケート「本校は、子どもたちに問題となる行動が少ない」の肯定的評価 68.8%は、昨年度より 8.0 ポイント下がった。地域アンケート「通学している子どもたちに問題となる行動が見られない」の肯定的評価も昨年度より下がっている。保護者・地域の肯定的評価が下がってきているので、教職員には、生徒に学校生活の生活指導だけではなく、地域での生徒の様子を把握し、今まで以上の広範囲な生活指導をお願いしたい。

保護者アンケート「本校の教員には、子どものことの相談をしやすい」の肯定的評価 67.6%は、昨年度より 1.5 ポイント上がった。しかし、2 年生保護者の肯定的評価 62.1%は、他学年に比べて低い。2 年生は学校生活に慣れてきた時期でもあり、保護者によっては学校生活の緊張感が薄れていることも考えられる。教職員は、保護者の生徒に関する悩み等には親身になって対応し、生徒・保護者そして地域とのよりよい信頼関係を築いていただきたい。

## 3. 進路指導について

生徒アンケート「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の肯定的評価は、今年度もすべての学年で 80%を超えていて、進路指導に関する系統的な授業が定着し、評価されていることがうかがわれる。さらに今年度は、生徒アンケート「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある」の肯定的評価が 64.2%、昨年度より 4.4 ポイント上がっている。学年別でみると、1 年生は昨年度の 46.1%が 56.8%に 10.7 ポイント上がり、2 年生は昨年度 59.8%が 64.2%に 4.4 ポイント上がっている。また、生徒アンケート「進路に関する情報が十分に提供されている」の肯定的評価は 68.5%と、昨年度より 2.5 ポイントの微増であるが、や

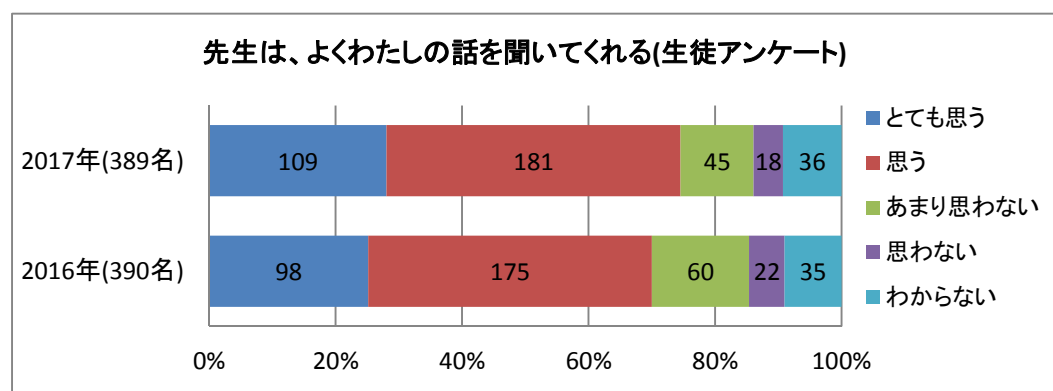
はり学年別でみると、1年生は昨年度の45.2%が52.7%に7.5ポイント上がっている。先生方が1年生の段階から力を入れていることが評価されてきたといえよう。



保護者アンケートでの進路指導に関する肯定的評価の割合は昨年度とほぼ変わらないが、その中で「本校から、進路について十分な情報が提供されている」の肯定的評価は58.0%となり、昨年度の52.7%から5.3ポイント高くなっている。特に2年生では、肯定的評価41.9%が54.7%と12.8ポイントと大幅に上がっている。これまで継続して取り組んできた1年生、2年生での進路指導の充実が、保護者にも認識されてきたことの表れといえよう。先生方の努力の成果であり、さらなる充実を期待したい。

#### 4. 教職員について

生徒アンケート「先生はいつも熱心に指導している」に対して、肯定的評価は昨年度同様80%近い評価を得ている。また、「先生はよくわたしの話を聞いてくれる」は昨年度の70.0%から今年度は74.6%と4.6ポイント上がっている。「先生は誰に対しても公平である」に対しての評価も学年の差はあるが、昨年度より高い評価を得ている。日々の先生方の取り組みの努力が、生徒にも理解されていると思われる。



保護者アンケートでは「本校の教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」の質問に肯定的評価は77.5% 「本校の教職員は社会人としてのマナーを身につけている。」の質問の肯定的評価は78.0%とどちらも高い評価を得ている。またどちらの質問の「わからない」の回答も昨年より減っていることから、日々の先生方の生徒に対する教育活動が保護者の方にも伝わっていることがうかがえる。今後も熱心な教育活動に期待している。

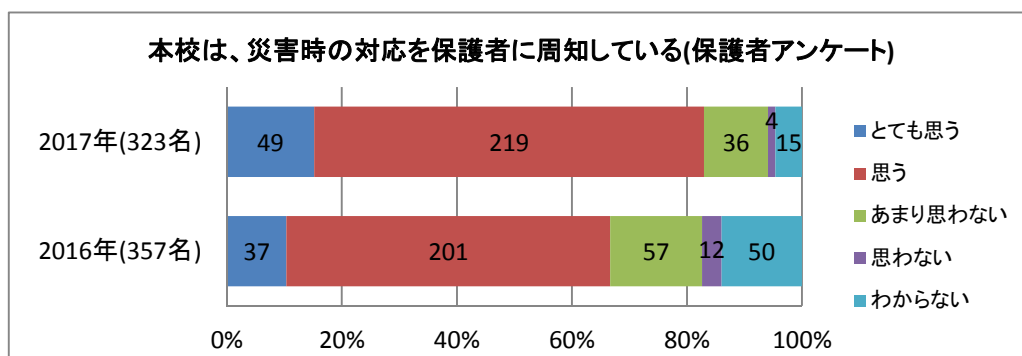
## 5. 総括

世田谷区では、平成 29 年度で創立 70 周年を迎えた区立中学校が 14 校あり、駒沢中学校もその中のひとつである。「向学 誠実 調和」を校訓とし、「自ら学び考え行動する、人間性豊かな生徒の育成」を教育目標に、「聞こえの学級(難聴学級)」や「あじさい学級(情緒障害通級指導)」など幅広い生徒を受け入れ教育活動を行っている。また、特色ある教育としては、少人数授業、ICT 活用による授業改善など多くの様々な改革が行われ、優秀な生徒を輩出し、社会に貢献している。こうした歴史的な積み重ねの評価は、過去 5 年間の「学校関係者評価」アンケート調査にも表れ、全項目の肯定的評価(わからないを除く)の平均は、生徒が 77.5%、保護者 80.6%、地域 93.7%の高い支持となり期待され信頼されている。こうした背景には教員の日頃の努力が不可欠であるが、今年度の教員の自己評価では、63 項目の肯定的評価の平均が 96%の回答が示すように、伝統的に校長、副校長をはじめ全教職員がひとつとなり熱心な教育活動に取り組んで来た裏付けといえる。

今年度の「学校関係者評価」アンケート調査の保護者からの回収率は、79.4%と昨年度の 88.3%より下げている。今年度は集計の日程が早くなり、アンケート実施の周知に時間をかけることができなかったことも一因とはいえ、対策が必要である。

生徒の評価では、本校独自質問項目を含めた 28 項目で「わからない」の回答を除くと、肯定的評価の平均が 82.0%と昨年の 70.5%から上げている。各項目の昨年度との比較では、19 項目が評価を上げ、9 項目を下げている。その中で「学校生活の中で、人を思いやるよう心がける」「人を認め合うよう心がける」が共に 92.8%と一番高い評価であり、本校の教育目標の浸透がうかがえる。評価が低い項目は、まず「教員の公平性」(56.8%)であり、毎年同じ傾向を示している。また、「区立小との交流」(56.6%)は「わからない」が 18.7%あり、生徒にとっては情報も少なく答えづらい項目といえる。

保護者の評価は、独自項目を含めた評価該当項目 47 項目で、「わからない」を除く肯定的評価の平均が 79.3%と昨年の 83.3%より下げている。「校長はじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」(88.8%)、「教員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」(89.0%)が共に高く評価されている。一番低い肯定的評価は「生徒はよく学習するようになった」(62.4%)である。その他の独自項目「学校に来校する回数」では『10 回以上』12.4%、『5~9 回』58.7%、『4 回以下』28.9%、「学校ホームページの閲覧」では『よく見る』19.3%、『時々見る』70.7%、『全く見たことがない』10.0%の結果である。充分とはいえないが比較的保護者の学校への関心が高いことがうかがえる。



また、今年度注目されるのは、「学校の安全性について」の肯定的評価がどの項目も昨年度より上がっていることである。特に「災害時の対応を保護者に周知している」は 20%近く上がっており、学校が力を入れた取り組みが評価されたといえる。

地域の方々の評価は、24 項目の肯定的評価は、「わからない」を除くと、昨年と全く同じで平均 95.3%と高い評価がされており、地域の方々からも駒沢中学校の教育活動を信頼し支持されていることがいえる。

総体的に駒沢中学校の教育活動の評価は依然高いことがいえる。今後も創立 100 年を目指して、積み重ねられている良き伝統を継承し、発展させていかれることを願っている。

なお、委員会として学校関係者からの信頼の継続とさらなる発展を求め、次の課題を提案したい。

#### 6. 更なる改善の努力課題

- (1) 生徒、保護者、地域の方々からの高い評価を継続してもらいたい。
- (2) 保護者および地域の方々のアンケート回収率を高める努力を引き続きお願いしたい。
- (3) 広報・宣伝活動を充実させ、アンケートのすべての項目で「わからない」の回答を減らすようお願いしたい。